

日本の相場上昇を主導する外国人投資家

Raku
Yomi

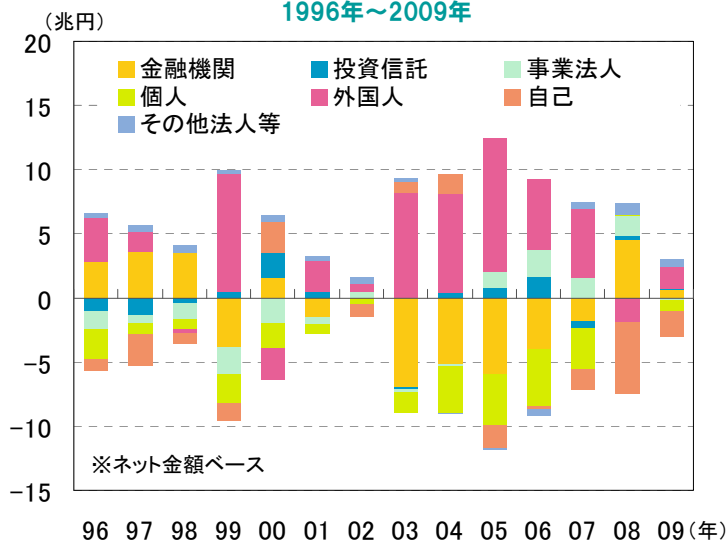
楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

東京証券取引所が7日に発表した2009年の投資部門別売買動向(東京、大阪、名古屋3市場の1・2部合計)によると、外国人投資家は日本株式を2年ぶりに買い越し、年間の買越額は1兆7,775億円となりました。

投資部門別売買動向の推移

1996年～2009年



左図は1996年以降の投資部門別売買動向の推移です。

2009年は、外国人投資家が日本株式の主な買越し主体となりました。堅調な海外市場を背景に、外国人投資家が日本株式買いを増加させたとみられます。また、年金などの運用を手掛ける信託銀行も1兆円を超える買い越しとなり、外国人投資家と共に、日本株式上昇の牽引役となりました。

一方、個人投資家は、2009年に8,666億円を売り越しました。2008年に日本株式を買い越していることから、利益を確定させるような売りなどが出たものと思われます。また、都銀や地銀、生保や損保なども売越し主体となりました。

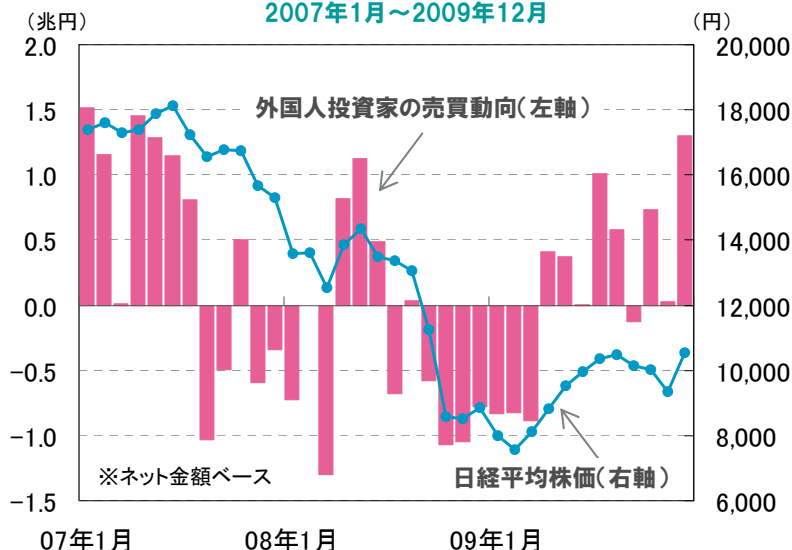
右図は、外国人投資家の売買動向と日経平均株価の推移です。

外国人投資家の買いが日経平均株価の上昇に寄与する傾向がみられることから、日本の相場上昇を主導するのは外国人投資家の買いだといえそうです。今後、米国景気の回復基調が鮮明になるにつれて、海外投資家の動きが活発化するとみられることは、日本株式にとって追い風になるものと考えられます。

なお、2009年年間の投資部門別売買動向(3市場、1・2部合計)の全売買代金に占める比率は、外国人投資家が約53%、個人投資家が約29%となっています。

外国人投資家の売買動向と日経平均株価の推移

2007年1月～2009年12月



※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成
※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。